



化学部門でドレスデン・ロッセンドルフ研究所
ステファン・ホルガー博士の講演会を開催

【概要】

理工学部化学部門にて、ドレスデン・ロッセンドルフ研究所のステファン・ホルガー博士による講演会を令和4年10月19日(水)に開催しました。

【本文】

理工学部化学部門にて、令和4年10月19日(水)に、ドレスデン・ロッセンドルフ研究所放射性医薬ガン研究室のステファン・ホルガー博士による「Bimodal Chelating Systems for Molecular Imaging (分子イメージングのための2つのモードを有するキレートシステム)」と題した講演会を開催しました。

ステファン先生はこれまで、超分子化学、 dendrimer 化学、配位化学、液液二相系の熱力学に基づいてガンの多機能イメージングや治療のための新規放射性トレーサーや溶媒抽出試薬の開発と特性評価を行ってこられました。とくに、機能性ナノ粒子を含む新規放射性トレーサーの開発と特性評価では、さまざまな分光学的評価、コロイドの化学特性評価、実験的または生体内における研究などの放射性トレーサーの包括的理解のために、 $^{64}\text{Cu}/^{67}\text{Cu}$ に基づく化学的、代謝的、放射学的に安定な錯体の設計と開発をされています。

今回、上智大学の早下 隆士 教授（以前、佐賀大学理工学部在籍）を招聘者とする JSPS 海外短期招聘プログラムの一環で佐賀大学（受け入れ教員：大渡 啓介 教授）での講演が実現しました。講演では、三座の大環状化合物である 1,4,7-トリアザシクロノナンや 3,7-ジアザビシクロ[3.3.1]ノナンを基体とする新規化合物の銅錯体による腫瘍部位の陽電子放出断層撮影法や光学イメージングに焦点を当てて、分子設計からセンシングまでご説明いただきました。

本講演会は新型コロナウイルスの新規感染者が減少したことを踏まえ、対面参加での実施とし、化学の広い分野さらには、物理、医学的な分野も含めての1時間ほどの講演となりました。講演会には、化学部門の教員と学生、物理部門の学生、ならびに西九州化学工学懇話会の関係者合わせて41名が参加し、最先端の話題について熱心に耳を傾けていました。



放射性トレーサーとして利用できる金属種を説明するステファン先生



聴講者からの質問に回答するステファン先生